

1 月期区長記者会見 【質疑要旨】

日時	令和4年1月17日（火） 午前9時～9時50分
出席者	<p>区長、豊島区都市政策顧問 隈 研吾様、株式会社サンシャインシティ代表取締役合場 直人様、NTT都市開発株式会社 顧問 楠本 正幸様、株式会社ランドスケープ・プラス代表取締役 平賀 達也様、再開発担当課長、交通・基盤担当課長</p> <p>毎日新聞社、日本経済新聞社、産経新聞社、東京新聞社、都政新報社、新宿区新聞社、日刊建設工業新聞社、TOKYO MX、としまテレビ、としまテレビ、創発としま、ヘッドライン、WAVE(13社)</p>
司会	広報課長

区長ほか	池袋駅東口と西口をつなぐウォークブルなまちづくりについて説明
質疑応答	
記者	本事業で「池袋らしきを残しながら」とあったが具体的にはどういうことか？
区長	<p>西口再開発が進むと、アゼリア通りは歩行者広場になり、交通広場も集約するなど、都市再生が進む。北側にはロマンス通り、恵比寿通り、西一番街という池袋西口最大の繁華街がある。駅前の開発は進めていくが、「池袋らしき」とは「ごちゃごちゃさ」「多様性」であるため、これらの西口の繁華街は残していきたい。</p> <p>東口についても駅前からハレザの周辺も開発を進めながらも「池袋らしき」を残していきたい。</p> <p>池袋の発展は戦後の闇市から発展した。先代の方々からのエネルギー、これを受けて残していきたいと考えている。西口駅前が高層ビルも建築されるかもしれないが、人世横丁（今は無いが）や美久仁小路などのかつての面影が残っている部分も是非残していきたい。それによって「池袋らしき」がこのまちに生き残ると隈先生にもご指導頂いている。</p>
記者	グリーン大通り広場化等の完成はだいたい何年くらいかかるのか？
区長	<p>池袋は新宿、渋谷から大きく後れを取っており、東京全体から見ても一番後発と思うが、今後、西口の再開発が順調に進み、東口もそれに続いて進めていく。</p> <p>本区は本年区制施行90周年を迎える。次なる100周年に向けてこの構想を完成させたいという思いである。しかし、かなり大胆な構想になるため、相当スピード感をもって進めていかなければならない。完成が15年後、20年後ということではなく、豊島区としては100周年に向けてこの構想を実現したいという思いをもって急ピッチで進めさせてもらっている。</p>

記者	東西の要となる北デッキの見通し、スケジュール感についてはどうなっているか？
交通・基盤担当課長	現在、池袋駅西口地区については開発の検討を急ピッチで進めている。北デッキについては、西口再開発及び東口再開発と連動させないと完成しないと考えている。現在、開発に合わせて北デッキの着手に向けて検討をしており、100周年にむけて、極力、将来の形が見えるように進めている。
区長	<p>今回は「駅袋からの脱却」ということで、地下の中央通路を主体で考えているが、東西の開発を進めていくには、当然、今後は北デッキの開発と併せて取り組んでいく。</p> <p>ただ、これまで北デッキについては長年検討を進めてきたが、なかなか実現の方向性が見出せなかった。今回、地下中央通路を繋ぐことにより、大きな一つのきっかけになるのではと考えているので、北デッキも開発の中で組み込んでもらい、出来れば、100周年までにこの計画が実現するように、関係者、地元方々の意見を聞きながら、スピード感をもって進めたい。</p>
記者	交通広場と歩行者広場との相違は？
交通・基盤担当課長	駅の開発では、駅前広場を歩行者広場と交通広場に分けて考えている。これはまさにウォークブルで歩行者優先のまちづくりを進めるため、歩行者優先の空間を歩行者広場、バスやタクシーなどの交通機関の空間を交通広場と分けて考え、表示している。
記者	副都心線の新駅構想はどのようになっているのか？
交通・基盤担当課長	副都心線の東池袋新駅については、開業当初から区として要望しているため、引き続き要望していく。
区長	<p>副都心線新駅については、私が区長になった際、豊島区内に2駅を作るという話をしていたが、採算性が合わないということで実現していない。</p> <p>新駅の計画は立てているが、「賑わいが生まれたら」ということになっており、乗降客数5万人程度にならないと採算性が合わないと言われている。副都心線開業当初は、2万人程度であったが、今回のダンベル型のまちづくりでは、当該エリアが中心部分となることで、更なる賑わいが生まれることが想定されるため、大きく乗降客も飛躍するのではないかと考えている。こちらについては、区を挙げて積極的に取り組んでいきたい。</p>
記者	東口の明治通りの交通広場化は具体的に何年後くらいか？
交通・基盤担当課長	東口のクルドサク化については、区役所庁舎横に位置する環状5の1号線について、東京都の方で整備を進めており、2028年3月に開業予定である。開通後、様々な実証実験を繰り返した上で、東西口のロータリー化を進めていきたいと考えている。2032年の100周年を目指してやっていきたい。

記者	<p>東口と西口のサンクンガーデン、交通広場はここから10年間でどう準備していくのか。</p> <p>東と西を結ぶ中央地下通路は何らかの改善を計画しているのか？</p> <p>東西のダンベル型の理想的な回遊とはどういうイメージか？</p> <p>西口再開発について、将来的に再開発に立ち並ぶ中高層ビルの風害についてはどう考えているのか？</p>
区長	<p>西口については、エスカレーターが現状1機しかないため、イメージ図のようにすぐに地上に出られるような空間を作っていく。</p> <p>東口については、明治通りが課題になっているが、環状5の1号線が整備された後は交通量も半分程度になるため、駅前交通をクルドサク化することで、「駅袋からの脱却」を図る。</p>
再開発担当課長	<p>西口再開発は現在、事業検討中の段階であり、風害の影響もあるかと思う。こちらについては現在検証を重ねており、風害が発生しないように樹木を植えたり、屋根を設置することで地上を歩きやすい環境を作りたいと考えている。</p>
隈 研吾氏	<p>池袋は東西それぞれの文化がある。また、東西それぞれの中にも文化がある。この多様性を磨いていくことが大事であると考えている。東と西同じような空間が出来てしまっただけでは、人間は行き来しない。東にないものを西に、西にないものを東に、それぞれ磨いていくことが大切である。中央空間についても、デッキ、地下通路、サンクンガーデンは20世紀にも作られていたものだが、これをウォークアブルなまちに相応しいデッキやサンクンガーデンとは何かを考え、それぞれが池袋らしさを追求した、新しいデザインにしていければと考えている。</p>
記者	<p>ダンベル型とは丸と丸があり、その両側にあるにぎわいを繋いでいくことを表しているのか？</p> <p>南デッキについてはどのように考えているのか？</p>
隈 研吾氏	<p>ダンベル型については、もちろん両側の丸が核になるが、実は繋ぐ部分が一番大切で、この繋ぐ部分をどう楽しくデザインしてことが大事だと認識しており、ここを磨いていく。</p>
区長	<p>南デッキは長年検討しているが、なかなか実現できていない。これは投資しただけのものが生まれてこなければ作れない。</p> <p>北デッキの場合は、西口再開発と同時に検討しているが、南デッキも南側の開発が進むときには是非作りたい。その際には関係者合意の上、財政的なものも含めて計画し、出来るだけ早く実現していきたい。</p>